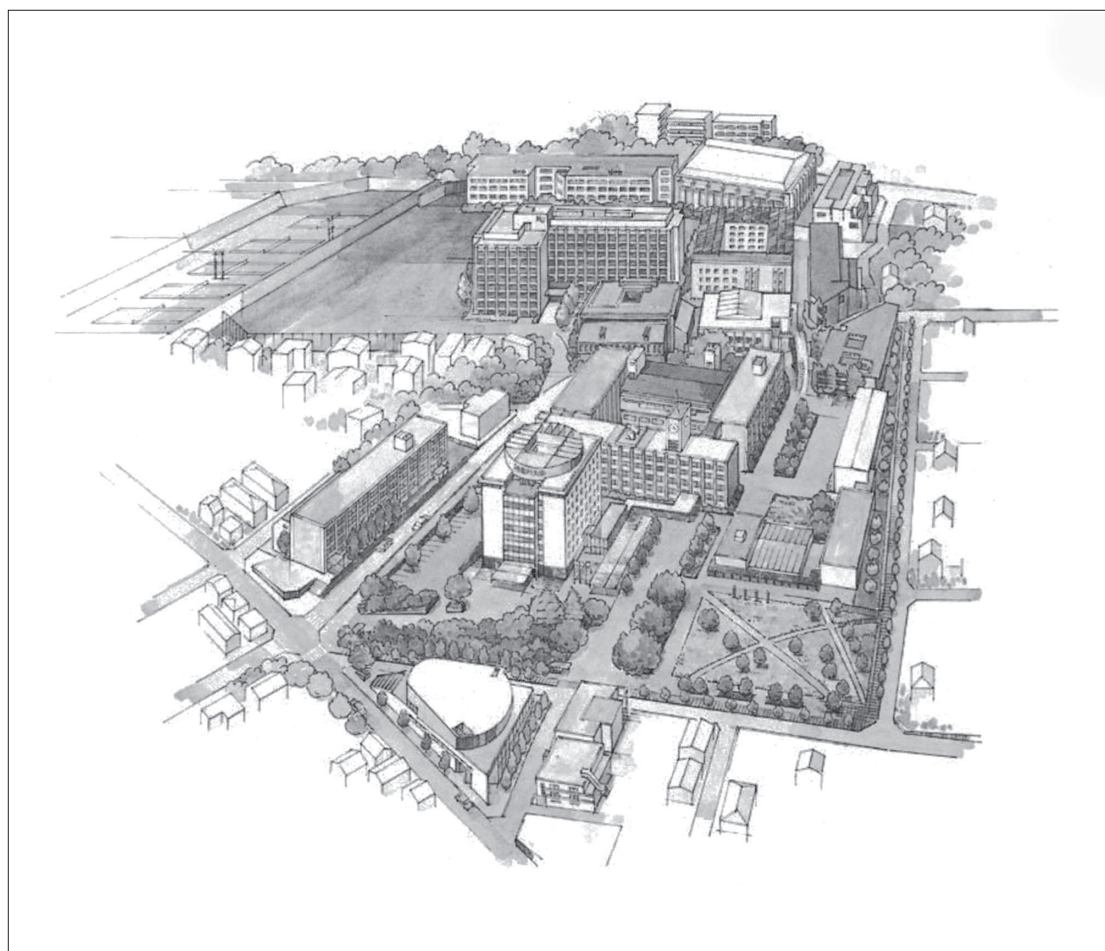


神奈川大学 人文学研究所

The Institute for Humanities Reserch

Kanagawa University



◆人文学研究所の事業

人文学研究所は1963年、人文学研究領域相互の活発な研究活動を支援することを目的に神奈川大学の附属研究機関として設立されました。

人文学研究所の主な活動はつぎの4つです。

- (1) 人文学に関する研究および調査
- (2) 研究資料の収集および整理
- (3) 研究及び調査成果の発表のための刊行物の発行
- (4) シンポジウムや講演会の開催

人文学研究所は人文学系の各種テーマによる共同研究グループの共同研究を大きな柱に、様々なシンポジウム・講演会を開催し、また、『神奈川大学人文学研究叢書』を刊行するなど多彩な活動を行っています。

◆人文学研究所の研究活動

人文学研究所の基本的な活動は、共同研究グループによる調査・研究活動と国外研究機関との学術交流の二つに分けることができます。本研究所創設以来、活動を展開した共同研究グループは総数30グループ以上を数えます。

【共同研究グループ一覧】

	名 称	研究テーマ
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題
2	東アジア比較文化研究会	沖縄・台湾の島嶼を中心に、その周辺地域の文化の比較研究
3	色彩と文化Ⅲ	色の記号—自然・言語・文化の諸相—
4	神々のコスモロジー	世界と日本の宗教に関して、様々な分野の研究者がその世界観、教義、意識等、具体的なあり方を考察し、宗教や神々意義を再検討する。
5	言語変異研究	1. 地域文化と言語変異 2. 言語政策と言語変異 3. 言語教育と言語変異
6	プランゲ文庫研究会	神奈川大学図書館が所蔵するプランゲ文庫の研究を行う。
7	活字文化の研究	1. 活字を通じた日本語教育と異文化理解（国際） 2. 活字文化普及のための教育・啓発活動（教育） 3. 活字文化普及による社会環境への影響（社会）
8	グローバリズムに伴う社会変容と言語政策に関する包括的研究	東アジアにおける自国語を対象とした言語政策研究。 移民先進国における言語政策。
9	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムについて、なかでも特にジェンダーという視点に着目しながら多様なテキストをもとに考察する。
10	自然観の東西比較	1. 神と自然についての歴史的・思想史的な東西比較 2. 風土についての比較文化論的考察
11	近代都市の表象	夢と幻滅を伴いつつ近代化し、快適さとともにさまざまな問題を生み出してきた欧米・東アジアの都市について、どのような表象が、どのような諸力と関連しながら提示されてきたかを検証する。
12	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う。
13	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。
14	帝国とナショナリズムの言説空間	東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、アフリカ地域におけるイギリス、アメリカ、日本の帝国支配とナショナリズムの交錯の様相を把握しつつ、それらが今日においてどのように語られてきたのかについて具体的に考察する。

◆人文学研究所 2013 年度講演会

	開催日	講演者	テーマ	肩書き	場所
1	7月5日(金)	篠原淳子	「発達障害」再考	NOP 法人あてではで神奈川所属	20-119
2	7月18日(木)	西脇威夫	スポーツ代理人の仕事、スポーツと法の関わり —契約、スポーツ事故等—	西脇威夫法律事務所	23-304
3	7月23日(火)	斉藤 充	非行少年の更生への手助け —子育ては愛し夢見せ泣き笑い—	家庭裁判所補導委託先	8-14
4	7月24日(水) 人文学研究所 50周年記念	岡島千幸	人と人の結びつきの在り方—世間と社会の比較研究	神奈川大学名誉教授	17-215
5		小林一美	毛沢東崇拜から尖閣列島問題に至る、わが中国史研究の 50年		
6	10月23日(水)	潘 建国	人文学と東アジアの文化交流 —中国古典小説と版本—	北京大学文学部教授	20-452
7	10月24日(木)	石原 悟	フィットネス産業 —成長のプロセスと今後の展望—	元コナミスポーツ会長	23-304
8	11月6日(水)	越智啓太	犯罪と心理の最前線の研究について	法政大学文学部	23-307
9	11月21日(木)	青木恵子	ギリシャの観光政策	ギリシャ政府観光局	20-310
10	12月5日(木)	Helgason · Jon · Karl	The Forking Paths of Eddas and Sagas	Unversity of Iceland	17-216
11	12月12日(木) 人文学研究所 50周年記念	武内道子	うそと皮肉はどう違うか —ことばの使用から心を見る	神奈川大学名誉教授	17-215
12		後藤政子	ゲバラはなぜボリビアで死ななければならなかったか？ ～ラテンアメリカ—20世紀から21世紀へ		
13		石井美樹子	イギリスルネサンスの人文主義と女子教育		
14	1月28日(火)	工藤庸子	工藤庸子とひも解くいま読むペロー「昔話」	東京大学名誉教授	20-417A

◆学術交流とシンポジウムの開催 (2002 年以降)

- ◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催
「21世紀—マルクス歴史学は死んだのか」：神奈川大学・横浜キャンパス 2001年12月1日
- ◇台湾・香港・上海の大学・研究機関との意見交換 2002年11月5日～11日
- ◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催
「アジアのポップカルチャーと日本」：神奈川大学・横浜キャンパス 2003年11月2日
- ◇浙江大学日本文化研究所・中国日本史学会主催
国際シンポジウム「道教と日本文化」：中国浙江省杭州市内 2004年11月5日～6日
- ◇神奈川大学人文学研究所・人文学会共催
国際シンポジウム「世界から見た日本文化—多文化共生社会の構築のために—」：神奈川大学・横浜
キャンパス 2005年11月11日, 12日
- ◇神奈川大学人文学研究所主催
国際シンポジウム「日本の文化変容と異文化—近世から近代へ」：神奈川大学・横浜キャンパス
2007年11月17日
- ◇神奈川大学人文学研究所主催
国際シンポジウム「表象としての〈日本〉近代ヨーロッパの場合—神奈川大学・ヴェネツィア大学学
術交流の現場から—」：神奈川大学・横浜キャンパス 2009年10月3日
- ◇神奈川大学人文学研究所主催
国際シンポジウム「ヴィジュアルとグラフィックの語り」：神奈川大学・横浜キャンパス 2010年8

月 24 日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「越境する比較文化」：神奈川大学・横浜キャンパス 2011年6月11日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「スタニスワフ・レムについて」：神奈川大学・横浜キャンパス 2011年6月18日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「Reform, Reuse and Recycle: Comparative Literature Perspectives on Adaptation」
(リフォーム, リユーズ, リサイクル: 比較文学の視点からみる改作)：神奈川大学・横浜キャンパス
2012年6月16日

◇神奈川大学人文学研究所主催

国際シンポジウム「東アジアの日本研究の現状と未来」：神奈川大学・横浜キャンパス 2012年12月1日

◇神奈川大学主催

国際シンポジウム「Transform, Transfigure, Transcend: Translation in Cultural Studies」
(変形, 変容, 超越—カルチュラル・スタディーズと翻訳)：神奈川大学・横浜キャンパス 2013年6月15日

◇神奈川大学人文学研究所主催

学術講演会「人文学研究所設立50周年記念」：神奈川大学・横浜キャンパス 2013年7月24日

人文学研究所共同研究グループ一覧

2013年度

	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メンバー	人数	叢書
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題	1.メンバー各自の関心に基づく研究会の開催 2.学外研究者の講演、研究交流 3.日・中相互の留学に関する調査研究、ワークショップ開催 4.在日華僑に関する調査研究 5.中国・朝鮮における旧日本租界に関する調査研究	大里	大里・中島・松本・日高・山口(建)・鈴木(陽)・彭・孫・村井(寛)・〔非〕吉川・楊・梁・呉・〔学外〕王・見城・周・易	17	2014年 予定
2	東アジア比較文化研究会	沖縄・台湾の島嶼を中心に、その周辺地域の文化の比較研究。	前年度のテーマ「聖なるトボス」を継続する。なお伊坂代表による共同研究グループ「自然観の東西比較」においても、類似したテーマ設定で活動が展開されており、については両グループのメンバー相互の意見交換を通じて、将来的になんらかの成果(叢書の出版)を期待できるような見通しの下、今後の活動を展望したい。 1.メンバーによる研究発表(2回) 2.外部講師による講演会(1回) 3.特定の地域を定めたフィールドワーク(1回)	深澤	深澤・山口(建)・彭・孫・大里・小熊・尹(亭)・渡辺・前田(禎)・鈴木(陽)・小馬・上原・〔営〕廣田・〔経〕佐野	14	検討中
3	色彩と文化Ⅲ	色の記号—自然・言語・文化の諸相—	1.比較言語学、色名の色空間上における範囲のゆらぎ、各言語における色彩語の由来、発達および歴史の変遷 2.禁色の研究 3.色彩と自然、文化、思考スタイルとの関わりに関する調査研究 4.色彩の東進シルクロードの追跡 5.必要に応じて研究会、講演会を開催する。	三星	三星・尹(亭)・久田・彭・新木・堤・〔理〕長・〔営〕加藤・〔経〕田島・〔非〕畑田・高・車(香)・〔学外〕山本・小林・車(貞)・林	16	2011年 出版
4	神々のコスモロジー	世界と日本の宗教に関して、様々な分野の研究者がその世界観、教義、意識等、具体的なあり方を考察し、宗教や神々意義を再検討する。		寺沢	寺沢・小馬・山口(建)・尹(亭)・新木・〔営〕新垣・〔非〕鈴木(彰)	7	無
5	言語変異研究	1.地域文化と言語変異 2.言語政策と言語変異 3.言語教育と言語変異	今年度は主に「言語政策」を中心に文献調査を行う計画である。特に中国における言語普及に関する政策の変化について調査研究をする予定である。	彭	彭・松村・加藤・〔非〕鈴木(進)・張・山村・陶	7	無
6	ブランゲ文庫研究会	神奈川大学図書館が所蔵するブランゲ文庫の研究を行う。	2013年4月17日 例会実施 2013年5月8日 例会実施 2013年10月25日～27日 上海会議を予定 2014年2月17日 例会を予定	孫	孫・大里・村井(寛)・尹(健)・〔営〕泉水・阿部・〔学外〕小林	7	2015年 検討中
7	活字文化の研究	1.活字を通じた日本語教育と異文化理解(国際) 2.活字文化普及のための教育・啓発活動(教育) 3.活字文化普及による社会環境への影響(社会)	1.研究テーマに即した調査・研究の実施 2.研究会の開催	松本	松本・新木・駒走・小松原・坪井・間山・尹(亭)・高木・〔非〕和美	9	無

	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メンバー	人数	叢書
8	グローバリズムに伴う社会変容と言語政策に関する包括的研究	東アジアにおける自国語を対象とした言語政策研究。移民先進国における言語政策。	現代日本の言語政策、法制の検討。 国内における言語政策の調査。 東アジアにおける自国語を対象とした言語政策。 学内における公開研究の実施。 叢書の出版。	富谷	彭・孫・堤・アリン・富谷・細田・横倉・〔非〕近江	8	
9	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムについて、なかでも特にジェンダーという視点に着目しながら多様なテキストをもとに考察する。	1. 研究会、講演会などにより、テーマに関する共通認識を深める。 2. 研究成果を積み上げ2年以内に叢書としてまとめる。	小松原	小松原・山口(ヨ)・笠間・村井(ま)・ラットクリフ・土屋・熊谷・ウエルカー	8	2014年 予定
10	自然観の東西比較	1. 神と自然についての歴史的・思想的な比較研究 2. 風土についての比較文化論的考察	1. 研究会の開催(9月) 2. 講演会の開催(11月)	伊坂	伊坂・上原・小熊・坪井・鳥越・前田・村井(ま)・山本	8	2016年 検討中
11	近代都市の表象	夢と幻滅を伴いつつ近代化し、快適さとともにさまざまな問題を生み出してきた欧米・東アジアの都市について、どのような表象が、どのような諸力と関連しながら提示されてきたかを検証する。	研究会、講演会などにより共通認識を深め、2015年度に叢書を出版することを目標とする。	鳥越	鳥越・熊谷・小松原・鈴木(陽)・土屋・日高・平井・村井(寛)・山口(ヨ)	9	2015年 検討中
12	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う	毎年6月に国際シンポジウムを開催し、ワークショップの活動の中で研究論文集の計画を練る。2013年度の叢書出版を予定している。	ラットクリフ	ラットクリフ・村井(ま)・ブッヘンベルゲル・〔非〕前島	4	検討中
13	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。	研究テーマに関連した調査・研究の継続実施。 2014年2月に“走る”ことを題材にしたシンポジウムを開催予定。	衣笠	衣笠・太田・宮崎・山下・〔非〕鈴木・塩田・〔学外〕大金	7	無
14	帝国とナショナリズムの言説空間	東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、アフリカ地域におけるイギリス、アメリカ、日本の帝国支配とナショナリズムの交錯の様相を把握しつつ、それが今日においてどのように語られてきたのかについて具体的に考察する。	年2回程度の研究会を開催する。	永野	永野・土屋・泉水・梅崎・村井(寛)・小馬・久田・後藤・高城・〔経〕山本	10	

〔名〕名誉教授 〔非〕非常勤講師 〔学外〕学外研究者

神奈川大学人文学研究所叢書一覧

人文学研究所

	年度	タイトル	出版社
1	1983	悲劇 —その諸相と人間観—	神奈川新聞社
2	1984	日本文化 —その自覚のための試論—	神奈川新聞社
3	1985	続 日本文化 —伝統と近代化の再検討—	神奈川新聞社
4	1986	民族と国家 —国際関係の視点から—	神奈川新聞社
5	1987	「近代」の再検討 —ポスト・モダンの視点から—	神奈川新聞社
6	1988	いま、日本と中国を考える —日中比較文化論—	神奈川新聞社
7	1990	「民族と国家」の諸問題	神奈川新聞社
8	1991	ロマン主義の諸相	神奈川新聞社
9	1991	インディアスの迷宮	勁草書房
10	1992	聖と俗のドラマ	勁草書房
11	1994	秘密社会と国家	勁草書房
12	1995	ヨーロッパの都市と思想	勁草書房
13	1996	国家とエスニシティー —西欧世界から非西欧世界へ—	勁草書房
14	1997	芸能と祭祀	勁草書房
15	1998	笑いのスコモロジー	勁草書房
16	1999	ロマン主義のヨーロッパ	勁草書房
17	2000	ジェンダー・ポリティクスのゆくえ	勁草書房
18	2001	日中文化論集	勁草書房
19	2002	歴史と文化の境界	勁草書房
20	2003	「明六雑誌」とその周辺 —西洋文化の受容・思想と言語—	御茶の水書房
21	2004	新文化のかたち —言語・思想・くらし—	御茶の水書房
22	2005	中国における日本租界 —重慶・漢口・杭州・上海—	御茶の水書房
23	2006	世界から見た日本文化 —多文化共生社会の構築のため—	御茶の水書房
24	2007	在外外国人と日本社会のグローバル化—神奈川県横浜市を中心に	御茶の水書房
25	2008	表象としての日本 —移動と越境の文化学—	御茶の水書房
26	2009	ジェンダー・ポリティクスを読む —表象と実践のあいだ—	御茶の水書房
27	2009	中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産	御茶の水書房
28	2010	世界の色の記号 —自然・言語・文化の諸相—	御茶の水書房
29	2011	〈悪女〉と〈良女〉の身体表象	青弓社
30	2011	グローバル化の中の日本文化	御茶の水書房
31	2012	植民地近代性の国際比較	御茶の水書房
32	2012	戦後日本と中国・朝鮮—プランゲ文庫を一つの手がかりとして	研文出版